科目名	眼筋機能病理学講義	分野・必選別・単位数	専門科目	選択	2単位

担当教員	◎教授　林　孝雄						
課程	博士前期	配当年次	1年	配当学期	通年	授業方法	講義

授業の概要	眼球運動を司る眼筋機能について中枢からの神経制御機構を学習する。
授業の到達目標	① 急速眼球運動である衝動性眼球運動、網膜像を安定させる滑動性追従眼球運動、前庭眼反射、視運動性反射、深径覚に関与する両眼離反眼球運動について、中枢から脳幹眼球運動神経核との関係、さらには動眼神経、滑車神経、および外転神経の眼球運動神経を経て各外眼筋に至る経路と作用を説明できる。 ② 外眼筋の眼窩内における制御システムについて説明できる。 ③ 眼筋機能異常としての複視の病態を説明できる。

授業計画

回数	担当者	行動目標
1	林　孝雄　教　授	眼球運動と中枢 眼球運動を司る中枢からの神経制御機構を説明できる。
2	林　孝雄　教　授	眼球運動と中枢 眼球運動を司る中枢からの神経制御機構を説明できる。
3	林　孝雄　教　授	眼球運動と中枢 眼球運動を司る中枢からの神経制御機構を説明できる。
4	林　孝雄　教　授	眼球運動と中枢 眼球運動を司る中枢からの神経制御機構を説明できる。
5	林　孝雄　教　授	眼球運動と中枢 眼球運動を司る中枢からの神経制御機構を説明できる。
6	林　孝雄　教　授	眼球運動と中枢 眼球運動を司る中枢からの神経制御機構を説明できる。
7	林　孝雄　教　授	眼球運動と中枢 眼球運動を司る中枢からの神経制御機構を説明できる。
8	林　孝雄　教　授	眼球運動異常の原因 あらゆる眼球運動および病的な眼球運動障害について、それらの原因を追及できる。
9	林　孝雄　教　授	眼球運動異常の原因 あらゆる眼球運動および病的な眼球運動障害について、それらの原因を追及できる。
10	林　孝雄　教　授	眼球運動異常の原因 あらゆる眼球運動および病的な眼球運動障害について、それらの原因を追及できる。
11	林　孝雄　教　授	眼球運動異常の原因 あらゆる眼球運動および病的な眼球運動障害について、それらの原因を追及できる。
12	林　孝雄　教　授	眼球運動異常の原因 あらゆる眼球運動および病的な眼球運動障害について、それらの原因を追及できる。
13	林　孝雄　教　授	眼球運動異常の原因 あらゆる眼球運動および病的な眼球運動障害について、それらの原因を追及できる。
14	林　孝雄　教　授	眼球運動異常の原因 あらゆる眼球運動および病的な眼球運動障害について、それらの原因を追及できる。
15	林　孝雄　教　授	眼球運動異常の原因 あらゆる眼球運動および病的な眼球運動障害について、それらの原因を追及できる。

事前事後学修の内容およびそれに必要な時間		
	【事前学修】	指定したテキストの次回授業部分を事前に読んでおくこと。 次回の授業内容を予習し、用語の意味等を理解しておくこと。
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、教科書等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要

教科書	丸尾敏夫、久保田伸枝 著:斜視と眼球運動異常、株式会社コームラ、2017年 丸尾敏夫 他 編:視能学 第2版、文光堂、2011年 大鹿哲郎 編:眼科プラクティス 6、眼科臨床に必要な解剖生理、文光堂、2005年 大鹿哲郎 編:眼科プラクティス 25、眼のバイオメトリー、文光堂、2009年 丸尾敏夫 編:眼科プラクティス 29、これでいいのだ斜視診療、文光堂、2009年
参考書	
成績評価の方法および基準	レポート30%、口頭試問60%、授業内課題10%　欠席・遅刻・早退は減点の対象となる。
その他履修上の注意事項	試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。 （ディプロマ・ポリシー3に相当する）